

新たな学びの幕開け

米山太樹

私は、実際にアメリカの大学生と同じ授業を受けることにより英語能力を向上させたい、アメリカ人の考え方を生で学びたい、そして埼玉親善大使として埼玉県の魅力を国内外に広げていきたいという動機で本プログラムに参加しました。本レポートではプログラム開始一ヶ月半程で私が感じたことや学んだことを紹介します。

プログラムの主軸であるアメリカの大学の授業では、フィンドレー大学のモット教授が教鞭を執ってくださり、"Decade Project"というテーマの下、フィンドレー大学の学生とペアとなって、自分達が選択した10年間のアメリカ及び日本における音楽の変遷を辿るということに主眼を置いて取り組んでいます。初回授業では、モット教授は彼自身一方的な授業を望んでおらず、できることなら全ての授業で学生が中心になる授業にしていければ良いと仰っていました。日本の学校では、先生が中心的に話を展開し授業を進行するという一方向的な教育を受けてきた方が多いと思います。例に漏れず、そのような教育を受けてきた私も初めは、グループの中で一番に発言することに対して臆する気持ちがあったり、他の人の発言や意見に積極的に反応することができませんでした。しかし、初回の授業を終え、このままでは当初の自分の目的を果た

することができないと思い、二回目の授業からは口数を増やし、能動的に授業に参加するよう心がけています。

また、今回の後期プログラムでは前期とは異なり、ペアという概念が追加されました。これにより、フィンドレー大学の学生と二人一組のペアを作り、一週間に一度は連絡を取り合い、文化交流を行ったりしながら、"Decade Project"を進めています。私の場合、ペアの学生とは一週間に一回オンライン会議を行い、毎回一時間半程の会話をしてコミュニケーションをとっています。オンライン会議を通じて、音楽がどのような影響を互いの国に与えているのか、今どのような音楽が流行しているのかなどについて話し合っ"Decade Project"を進めていくと同時に、文化、食事、政治、個人的な家族について話し、アメリカに関する知識を吸収したり、埼玉県魅力を発信しています。毎回の一時間半程のオンライン会議はあっという間に過ぎ、非常に有意義なものであると実感しています。

まだ数回しか授業を行っていないので、本プログラムの全容や魅力を最大限にお伝えすることはできませんが、私自身本プログラムに参加できたことに非常に満足しています。数回の授業や週一のペアの学生とのオンライン会議で感じたことや学んだことは日本で普通に大学生をしていたら到底手に入れることができないものです。プログラムの半分も終わっていないのにも関わらず、数えきれない程の貴重な経験をする事ができています。これからのプログラムが楽しみで仕方がありません。



授業の様子